主題：―主イエスはよみがえりであり、いのちである―　　2022/4/13（水曜日）

目標：―死をも支配する力を主イエスが持っておられることを信じる―　　キリスト伝

後期ユダヤ伝道Ⅱ― ③

「主によみがえらされたラザロ」

ヨハネの福音書 11:1～13

主イエスは十字架に架けられる過越の祭の1ヶ月程前、ヨルダン川の東側で時折、弟子たちだけではなく、群衆にも十字架を示され、その覚悟を迫っておられた(ルカ 14:25 以下)。

主イエスは奇跡や癒し見たさに集まる群衆の中に紛れている一握りの者たちにも、信仰の決心を促されたのである。

時は近づいて来ていた。現実にはユダヤでクリスチャンになることは非常な困難が伴い簡単なことではない。残していく弟子たちに主イエスは十字架を負って従うだけでなく、続く栄光の復活、死を支配するご自分についても教えようとされ、予(あらかじ)め、実物体験をさせられたのである。人の命は神である主が握っておられるのである。この時期、親しくしていたベタニヤのラザロが病になり死ぬことは偶然ではない。神は、御子イエスには死を破る力があり、主イエスを信じる者にとって、死は何の力もないことを示されたのである。

御業に驚き、奇跡を喜ぶ弟子たちは目が覆われていて、深くは理解できない。しかし、主イエスはご自分自身が死を破り復活されることを、既に示しておられたのである。

[聖書の学び]

Ⅰ、ラザロの病気　(ヨハネ 11:1～16)

1、ベタニヤの姉妹たちが、兄弟のラザロの状態を知らせて来ました。どのような状況で、どうして欲しかったのでしょうか？

（ヨハネ 11:1）

2、主イエスはこの知らせに対して、何と言われましたか？ (ヨハネ 11:3)

3、ベタニヤの姉弟を愛しておられたにもかかわらず、主イエスが直ぐに向かわれないで、２日後出発された理由は何でしょうか？

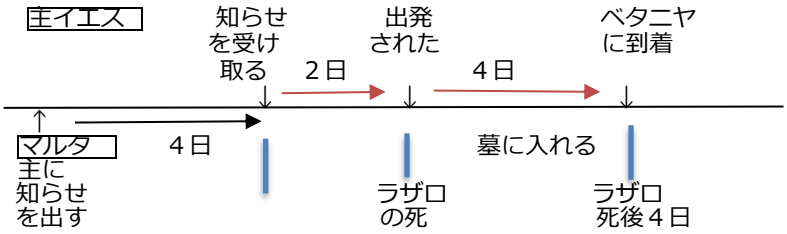
①エルサレム付近の緊張 (ヨハネ 11:8～16)

②まだ、ラザロが生きていた・・・ラザロが死ぬのを待っていた。(ヨハネ 11:11)

③死んだら終わりではない。

④主イエス自身の死と復活の栄光のため

4、ラザロの死後４日たって、主イエスがベタニヤに到着された。(v17)



（ベタニヤまで４日の旅）

※知らせが届いて即出発していても、主のベタニヤ到着は、ラザロの死後２日後である。

Ⅱ、主イエスの涙

1、マルタとマリヤに対して主イエスは何と言われたのでしょうか？ (v25)

①マルタ･マリヤ――― ラザロが病気のとき主イエスがおられなかったので、癒していたのを残念がった。（死ぬ前に来て欲しかった）

②よみがえりについて――――再臨のときの死後の復活に望みを置いていたが、ラザロの復活とは思っていない。（v24～30）

2、主イエスが「霊に憤りを覚え、心を騒がせて」とあるのは、どのような意味だと思いますか？ (v33、38)

3、主イエスが 35 節で、「涙を流された」とあるのは、どのような心だと思いますか？（考えてみましょう）

ユダヤ人には、故人の霊が死後４日間死者の体にもう一度入ろうと戻る入り口を求めて墓の周囲をさまよい、４日経つと何処かへ立ち去るという考え方があった

Ⅲ、ラザロの復活（ヨハネ 11:38～45）

1、蘇生の見込みのないラザロの墓の前で主は何と言われましたか。

①「石を取りのけなさい」（v39）… 不信仰の石を取りのけなさい

②主イエスはマルタに何と言われましたか？（v40）

③父なる神への祈りに込められた、主イエスの思いは何でしょうか。（v41～42）

2、主イエスが大声で叫ばれると、どうなりましたか？（v44）

＊ **ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。